

第6回苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会

事務局 本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

それでは、会議に入らせていただきます。会議の次第に沿って進めてまいります。

座長の森先生、よろしくお願いいたします。

○森座長 本日もどうぞよろしくお願いいたします。

今日、お手元の次第でいきますと、一つのみですけれども、これまでの議論の総まとめということで、事務局よりご説明いただいて、皆さんと一緒に確認とこの先に向けて意見交換が少しできれば良いと思っております。

それでは、早速ではありますが、苫小牧駅周辺ビジョン完成版についてということで、まずは、駅周辺ビジョンの前半部分の基本方針等について、事務局から説明いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局 どうぞよろしくお願いいたします。

進め方としまして、お手元の資料の31ページまでを前半、後半が32ページ以降と別紙で資料をお配りしております。前半、後半に分けて進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

はじめに前半部分の説明をさせていただきます。

ビジョンの進捗状況ということで、前回委員会にてご議論いただいた部分と、やや重複する部分もありますので、少し割愛をしながら全体的な説明をさせていただきたいと思っております。

はじめに、5ページをお願いいたします。

駅周辺ビジョンの基本的な体系としまして、示しているコンセプト、方向性を基に八つの目標を設定し、駅前再整備実証事業組織づくりというところを次年度以降進めていく、そのような整理にさせていただいております。

6ページになりますが、全体的な計画等と関連付けて、整理させていただいておりますけれども、以前から説明させていただいておりますとおり、都市再生コンセプトプランを令和3年3月に策定し、それを具体化するという流れで、今駅周辺ビジョンの策定ということになっております。このビジョンにつきましては、今年度策定している立地適正化計画、あるいは、その他市の計画等も関連づけておりますし、一方でスマートシティ構想、環境基本計画、ゼロカーボン推進計画とありますけれども、これらも同時に進めるという部分になりますので、連携をしております。このビジョンを基に、次年度以降も駅前再整備のハードの検討、それから実証事業やエリアマネジメントというソフト事業にも実践していくというような位置づけをしております。

続いて8ページをお願いいたします。

苫小牧駅周辺ビジョンの対象範囲というところで載せておりますけれども、苫小牧駅から市民文化ホールを中心とした範囲として、中長期的には、ウォーターフロントも連携す

るような形で進めていきたいと考えております。

続いて10ページ、11ページをお願いいたします。

様々な本市の強みを改めて表現をさせていただいておきまして、駅周辺エリアの位置づけとして、ここの強みを生かして、今後、民間投資等を積極的に取り入れるべくこういうところはアピールポイントとしてしっかりと打ち出していきたいというふうに思いますし、11ページには東部の大型商業施設、あるいはウォーターフロントとの役割分担というところで、中心市街地の新たな役割というものを整理しております。

12ページをお願いいたします。

改めて全体スケジュールとしまして、旧サンプラザビルを可能な範囲で早期解体を目指す方向性の基に全体の整理をしておきまして、令和5年度につきましては、この策定したビジョンを具体化、それから駅周辺整備の事業計画の作成というところで、予算を計上していきまして、次年度はこういったところを具体的に組み込んでいくことを考えております。

次に、14ページをお願いいたします。

目指すべき方向性、基本方針ですが、創造的学びと暮らしが会うまちというテーマを掲げております。15ページ、16ページには、その八つの目標というところで、ウォークアブル、エリアマネジメント、新たな産業振興、ゼロカーボン、それからスマートシティ、国際都市、学び・人材育成、防災強靱化これらが達成できるような計画に進んでいくという考えでおります。

次に、20ページ、それから27ページになりますけれども、これまで駅前再整備の配置計画等々を考えてきた中で、現時点の目指すべき姿となります。これは、ビジョンのイメージを表現したものになりますけれども、パース図については、駅側から南に向かって、広域的な視点で描いたものでありますし、27ページにつきましては、特に駅前のところをフォーカスしたイメージとして載せております。当然、これが確定値ではありませんけれども、現時点として望ましい姿というところで、スケッチしたものでございます。

続いて、28ページをお願いいたします。

今の検討例というところになりますけれども、具体的に駅前の考えのベースとなる配置案の最終版というところになります。規模、内容、あるいは機能等々を含めまして、今後の検討事項となりますけれども、今の配置案をベースに、あるいは前提条件というところをベースに、様々な事業者のご意見等々も聞きながら、次年度は、より具体的な計画として市の施策となるように、目指していきたいと思っております。

それから、JR北海道さんとの関係ですけれども、現在協議中で、まだこの駅と分離するような形で表現せざるを得なかった部分もあるのですが、今後、今の建物を残したまま前に建設ということは考えにくいと思いますので、その具体化に向けて協議してきましたけれども、具体的にさらにJR北海道さんとも協議をしながらこういった配置案を検討していくこととなります。

30ページにつきましては、今の配置案を横から見たような形で、よりこの各施設の高さを分かりやすく整理したものを載せております。

また、31ページには、今の考え方のベースとなるそれぞれの意見について、大まかなものになっておりますけれども、事業者の意見も踏まえながら現在の絵姿というところまで示したという状況になります。

○森座長 はい、ありがとうございました。ご説明いただいた内容は、ほぼ前回と重なっているところが多いかと思っておりますけれども、何かご確認したいことがあればぜひお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○石森委員 新聞で発表記事が出ておりましたけれども、何か反響なんかございましたでしょうか。

○事務局 今、パブリックコメントを実際にやっています、今月28日までが意見募集期間になりますけれども、まだ数件のご意見ですが、今のところ評価をいただいているような状況です。ただ、一方で電話とか、パブリックコメントに至らないような意見も幾つかいただいております、そういう意味では、この考え方を示したというところで、少し注目をしてもらえるかなと思っています。また、歴史を踏まえたまちにきなさいというようなご意見もいただいております。

○石森委員 やはり失敗した、そういうところに丸投げしたら駄目など、そういう意見が多いですね。イメージ図で新しいものも入っているから、そういうものの印象づけをうまく説明をされたほうが良いなと思います。

○森座長 ありがとうございます。

それでは、後半部分の説明を続けてお願いいたします。

○事務局 それでは、32ページ以降を説明させていただきます。

まず、33ページになりますが、今後の進め方として、この駅周辺ビジョンの方向性を基に、前半でご説明したハードの部分については、次年度以降に具体的な計画策定というところに進んでまいります。また、同時進行で進めている考え方としまして、今日、ご出席いただいている委員の皆さんも含めましてエリアマネジメント会議でもそのようなプレーヤー同士の連携というか、つながりを持ちながらやっていくと同時に、これまでやってきたCAPや様々な事業を実施や検証しながら関係者を繋げるところをしっかりと進めていくという考え方でございます。

続いて34ページをお願いいたします。

今申し上げた話が右側のエリアプラットフォームということで書いてあるものですがけれども、既存のまちづくり会社、商店街、あるいは様々な市民団体等というような方々の受皿というか、連携できるものをしっかり構築しながら新たな既存のものも作りまして、かつイベント等々を実施をしていきながら進めていきたいというふうに考えております。

一方で、やはり、専門家組織、左のほうにありますけれども、アーバンデザインセンターとあるんですけれども、全国各地に20か所ほどある組織ですが、前回石黒さんに来て

いただいて説明をいただいておりますけれども、そのような組織を今後どのように目指していくかというところは、必要な要素だと思いますし、ここの組成というところは、しっかり市民の声を聞きながらやっていくことによって、継続したまちづくりというところには欠かせないのかなというふうに思っています。

それで、35ページのところに、令和5年度以降の大まかなスケジュールを示しておりますけれども、実証実験という部分で、様々な事業をやりながら効果を検証しながらというところもありますし、組織づくりという点では、まずは検討会ですとか、ワークショップ、こういうところから始めていきたいなというふうに思いますけれども、様々な組織づくりに向かうと同時に、やはり、まちづくりの補填という意味では、既存のココトマという機能がありますので、そこの考え方も含めて、今ココトマの指定管理をお願いしておりますけれども、令和6年度から契約が更新になりますので、そこに向けて令和5年度中に、また、このココトマの在り方というところも整理をしていきたいなというところで考えております。

41ページをお願いいたします。

今申し上げました横のつながりのイメージを整理させていただいております。それぞれの取組や様々な事業を展開していく形になりますけれども、その中にプレーヤーとして、いらっしゃる皆様を様々なパターンで組み合わせながら、実際に事業を動かしていくとイメージで考えております。

次の42ページには、令和5年度のスケジュールで先ほど申し上げました実証事業や組織づくり、まちづくり拠点というところをこのようなスケジュール感を持って令和5年度内に動かしていきたいなと考えております。

43ページにこの二つの組織の役割ですとか、どういった財源を基に進めていくべきかということを他市の事例を参考にしながら整理をさせていただいております。このような役割分担を目指しながら進めていきたいと考えています。

最後45ページに、先ほどのハードを含めた全体のスケジュールにつきまして、今、駅周辺ビジョンについて、大きな視点は変更はしませんけれども、様々な条件についてはやがてウオーターフロントとの連携ということも見ていきたいと考えております。一方で様々な市民の意見、あるいは事業者のご意見を伺いながら、来年度基本計画策定というところに進んでいきたいと思っておりますし、ソフト事業もそれに向かっていくというのが全体の流れでございます。

もう一点、別紙でお配りしておりますUDCと全体会議のスケジュールイメージを書いておりますけれども、1年間様々な形でご議論をいただいた駅周辺ビジョン検討委員会というのは、一旦ビジョンの完成をもって本日をもって終了になりますけれども、皆様には今後の会議体について、少しイメージをお伝えしたいと思います。一つ、次年度については、特にこの駅前の再整備といった計画策定について議論いただきましたがこの部分については、事業者や関係者に特化したような形になりますけれども、名称を別にしまして、何らかの

検討組織は、立ち上げたいと思っています。これについては、その計画の策定までの会議体になりますけれども、このビジョンについては、今後も引き続き進めて、推進していくという意味で、先ほど説明したソフト事業について様々皆さんにも関わりを持っていただきながら、計画ができた後には、デザイン会議と書いていますけれども、このビジョンの推進を見ていく組織として何らかの組織体でみなながら、このビジョンを今後も継続的に進めていきたいというイメージを持っておりますので、また、今後についてはご案内させていただきますけれども、このような進め方で、何らかの関わりを持っていただきながら、進んでいきたいなというふうに考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

○森座長 ありがとうございます。それでは、たくさん組織が出てくるので、ちょっと分かりづらいところもあるかもしれませんが、今、この時点でぜひ分かりにくかったところとかありましたら、ご説明をいただいたほうがいいと思いますので、何でも結構ですのでありましたら、お願いします。いかがですか。

補足的と言いますと、例えば43ページに、今のご説明のメインのトピックで行きますと、アーバンデザインセンターやエリアプラットフォームというのが、これが大きなポイントだと思うのですが、ざっくり言うと、アーバンデザインセンターのほうは、苫小牧市民ではなくて、専門家が集まっている組織というか、集団みたいな形をイメージしていただいて、エリアプラットフォームのほうは、まさに苫小牧市でいろんな活動をする、あるいはしたい方々に対して地元でちゃんと横をつなげてまとまりをもってやっていきたいと思いますという形の性質のものがあるということですね。

あと、最後に将来的にエリアデザイン会議というものは、もう少し駅前の計画とかも含めて、全体的に見て意見交換をするような組織になっています。何かありますでしょうか。本当に動くのかということなんですから、それをやっていくという意思表示の報告だったかなと思います。

○井上委員 専門家の組織のアーバンデザインセンターですがどういった方たちを想定されているんですか。

○事務局 まずは、こういった組織は、苫小牧にはなじみのない組織になりますので、全国でそういうことを動かしているノウハウをお持ちの方に入って頂いて助言とかサポートをいただきながら進めていきたいと考えています。業務としては例えばココトマの助言というふうに考えていますので、今後のココトマの運営ですとか拠点としての在り方というところも、今後のココトマを担う組織に対して、あるいは行政に対して、助言とかアドバイスをいただくようなことからスタートしていきたいと考えています。なので、その先として、地元でそういった組織が根づくような方向に行けば、やがては、苫小牧のまちもアーバンデザインセンターが機能していくと考えていますので、まだ漠然としている考え方なのですが、徐々に組成に向けた動きを外からもご意見をいただきながら作っていくというのが現在の考えです。

○森座長 補足ですが、先ほどご説明の中で、全国でアーバンデザインセンター20ぐら

いあるということで、多くの場合は、しっかり大学の人間が関わっていることが多いですね。例えば九州だったら、九州大学の建築都市計画の先生、それに大学教員プラス大学の人ではないんですけども、まちづくりの専門家の方、必ずしも、地元の出身者だけではなくて、別のところで活躍されている方に入っていただくという形で、立場的にも割と中立にそのまちのまちづくりをアドバイスしていくという形なのかなと思います。そのような形でどう整えていくのかとかあるかとは思いますが、一般的には大学関係の建築であったり、まちづくりだったり、政策系あと、経済系の方とかですね。やっぱり、いろんなまちづくりでアーバンデザイン市街地の活性化をやっていると、やっぱり民間ベースですので、衝突があったり、お金がもうかるのかももうからないのか、そういう生々しい利益みたいなところの話が出てくるのですけれども、それとは別にまちとしてこうあるべきでしょうという話の間を取りながら、方向性を助言していく組織というイメージをしていただければと思います。

○井上委員 民間が入ってきて利益を追求していくと思う。そうすると方向性がぶれるのでそういう存在は重要。何が理想でその中で予算があるので、何ができて、できないという線引きは必要であり、その土台となる考えは大切かなと思います。

○森座長 そうですね。経済性はすごく大事だと思いますけれども、それだけではまちの豊かさにはつながらないので、そのようなイメージで準備されていると思います。

○大沼委員 ただ一つ中立的な立場とおっしゃったんですけど、かなりそこは難しい部分かなと思います。ですから、例えばですが、ゼネコン系の組織だとか、そういう実績のあるところを取り込んでいかなければなかなか民も入れていかなければ難しいと思うので、理想だけではいかないうような気がします。

○森座長 その辺りUDCの設立ともう一個のほうのエリアプラットフォームのほうがどちらかという当事者に係るメンバーの方々の横のつながりみたいな性格をしっかりと持ちながら進めていかなければいけないのではないかなと思います。

○大沼委員 全国20というのはある程度分かるようになっているんですか。

○森座長 アーバンデザインセンターとグーグルで検索すると日本全国にある組織が出てくる。以前、大宮で活動している石黒さんに来ていただきましたけれども、私の印象で見ると、九州のほうがすごく活発に見えるんです。

北海道ではUDCという名前ではやっているところはないですけども、ただ、まあ、そういう名称を名のらなくても同様の活動をされている、そういう組織はたくさんありますね。

今ご指摘があったように、今、こういう組織になったらいいねぐらいのところですので、具体的に誰がという、具体的な人も含んで、やっぱりこれから詰めていくことが必要かと思えます。そこが失敗すると結局進まなくなりますので、そこは事務局を信じて、準備していただきたいということもありますし、今ご説明がありましたように、今のこの会は、目的上、今回で最後ですけども、やはり、じゃあ、UDCとプラットフォームができた

からもうそれでオーケーという話では多分ないので、何らかの形でこういう委員会のようなところで議論していくとか、意見を述べていくとか、検証するということが必要かと思っています。

○山口委員 北口側に関してはどういった考えなんですか。

○事務局 JRさんに関わる話ということもあるんですが、やはり当初から北から南の流れというのは何らか作らないとならないなということは考えています。

次年度、駅舎をどうするのかという話というのは自由通路に関わる部分もあるので当然検討しなければならないし、一方で、駅前広場については再整備が必要な工事がありますので、そのバスレーンやタクシーレーンというところをどのように時間を決めて整理をしたのかというところが北口についての考え方になります。

○山口委員 ありがとうございます。

○森座長 その他、いかがでしょうか。

それでは、一つ目の議題で、今回、完成版についてご報告いただいて確認させていただくということで、今、行いました。

委員会としての私の進行は以上となりますので、事務局にお返ししたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。

○事務局 それでは、ご意見いただきました。苫小牧駅周辺ビジョン、これをもって、苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会は終了となります。

皆様、誠にありがとうございました。

それでは、各委員から一言ずつ、ご挨拶を頂戴していきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○荒井委員 本当に委員の皆様、お疲れさまでした。参加させていただきまして、どうもありがとうございました。

今回、この駅周辺ビジョンが完成したということで、座長もおっしゃっていたように、これからは誰がやるかということと、私たち市民団体として、これまで活動していったので、今後も誰がやっていくかと、誰とやっていくかということと、あとやっぱり、どれだけ当事者意識を市民の皆さんに持っていただきながら、仲間を私たちも増やしていくということが大切になるのかなということ。同時に、この計画と一緒に、私たちもまたお力になれるように進めていきたいなというふうな思いを新たにしていたところです。

苫小牧市にいろんな課題があったり、まだまだあると思うんですけども、ちょっと明るい話題とか、千歳に新しい半導体の会社が来るとなったら、もしかしたら苫小牧の人口が増えたり、まちに興味を持ってくれる人がまた増えるかなとか、そういった話題もありましたので、これからもまちの話題に注力しながら、私たち一人一人ができることを歩を進めていければなと思っております。ありがとうございます。

○石森委員 商工会議所の立場から参加させていただいております。

この最終的な盛りだくさんの絵になっているわけですけども、そこからいろいろな特徴

をつけていけばいいのかなという感じがしております。

このビルを見ると、ここに商工会議所が入ってもいいかなというぐらいの、そういうまちづくりになればいいかなと思うんです。商工会議所は必ずビルを持つ必要がなく、テナントとして入居すれば、それだけまた活動範囲も広がるという、そういう利点もあるんですね。

そういう議論も、今、商工会議所の中でもいろいろ議論は、組織的なところまではまだ至っておりませんが、そういう夢を議論したりしております。

それで、いつも外から来るお客さん、企業誘致の関係とかを見ても、駅を、JRで来られる方を見ると、どこが中心ですかと、どこのまちですかと、こういつも言われておりますので、これのコピーを取ってお客さんに見せようと思っておりますので、そういう形で苦小牧のイメージを上げていくという、一ついいことだというふうに思っておりますので、できるだけこういう中に新しいものを盛り込んでということで、市民に説明できれば理解が得られるんじゃないかなと思います。

ただ、北口の方へ行けば行くだけ、パチンコ屋の脇にカラオケ屋ができたりというまちづくりになっていますので、何か方法はないものかという個人的な感想は持っています。

この委員会でいろんな議論をいただいてよかったと思います。どうもありがとうございました。

○磯貝委員 まず、このような機会に参加させていただきまして、本当にありがとうございます。

今回も、T.O.Pという、昨年度から引き続きみたいな形で参加させていただきましたけれども、何か、こういうそれぞれの立場でそれぞれのプレーヤーですけれども、やっていることがそれぞれ違う人たちの考えというのは、やはりソフト側の意見として、今後も反映していただく上ではいい形になったんじゃないかなというふうに思います。

私、個人的なところで言いますと、しっかりとこのテーマで「創造的学びと暮らしが会う街」ってよくて、僕が一番懸念していたのは、商業で何とかしようって、もう一回、何とかしようという方々がやはり、まちの駅前で商売をされている方は特にそういうふうに思っている方がまだまだいらっしゃるんじゃないかなというふうに思うので、新しい文化づくりをここでやっていかないと、本当にこのまちってどうなっちゃうんだらうと僕はずっと思っていたので、それがこういった形で結果が出たのは非常にうれしいなと思っています。

先ほど荒井さんも言っていましたけど、これからできることは粛々とやっていくだけです。ただ、市の皆さん、本当に今後も、多分、血なまぐさい話もたくさん出てきて、やりづらいところとか、そういったところも多々あるかなというふうには思いました。

このさらっとあまり触れないできてましたけど、再来年には解体案が書いてあって、誰も触れないのがちょっと僕は違和感を感じるぐらい、そんな短期間でいけるのかなと僕は内心思っていたんですけど、そういったところも含め、まだまだ山積されている間

題があるというふうに思っておりますけれども、そこをこれだけのメンバーがいらっしゃるので、いろいろもみながらやっていただけるといいのかなと思いました。

こういった形に参加させていただきまして、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

○井上委員 私も今札幌に務めている中で、本当に苫小牧のまちづくりに関わられたことを本当に感謝しています。

苫小牧に住民票を置いている者としては、駅前をなんとかしたいなという気持ちがとても強かったです。ですから、これからも市民として学んでいきたいと思えますし、また、私だけではなくて、市民の方たちの意識や関心が高まっていることを強く感じます。

それだけ、やはり苫小牧のまちに変わってほしい、私たちの誇れる町にしたいということとはやっぱりひとりひとりが強く願っていることなんだなと思いました。

今、皆さんと議論していますが、まちの新しい文化は人が作っていくもので皆さんの意見をいかに反映させるか非常に難しいんですけど、それをいかに、デザインというか、まちを作っていくかというのは重要なんだと感じます。

それで、一番私が今回、心配していたのが、箱モノだけを大きくしてほしくないということを考えてまして、そういうことということにこだわっているのは、やはり駄目だったら、その建物を壊せばいいということではなくて、いかに積み上げられるかということにもっていくぐらいにして、その代わりしっかりと、市民のまちづくりをする必要があると私は絶対思っていますので、ぜひ、皆様これからもよろしくお願いします。

本当に、苫小牧市の皆さん、非常にいろいろと大変だったと思えますけど、これからますます大変になっていくと思えますけども、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○大沼委員 今までありがとうございました。ふだん、私、金融の立場にいるものですから、さっき磯貝さんがおっしゃった解体についてなど知識がなかったんですけど、ビジョンという段階のところでこういう委員会に参加させていただいて、非常に参考になりました。

これがまだ始まりなので、これから具体的な計画があって進んでいくということですから、市民にとって非常に有益なもの、市民が自信がつくような、願わくば、ぜひ他の市から視察が来るような、そんなような先進事例になったらいいと思っていますし、そのようになれば、いろいろな国の予算も苫小牧に許してくれる、そのような話で、これからです。具体的に進むのにいろいろ変わりますしスキームもこれからですが、ありがとうございました。

○小早川委員 今回、委員会に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。ビジョンが完成して、これから具体的にになっていくんでしょうけれども、サステナブルな視点で見て、本当にすばらしいものが、今、出来上がりつつあって、今回の市では、うちのグループの企画開発のメンバーと、これを、世の中、いろんなまちづくりとかやっ

ているけど、どうなのかということで議論したんですけれども、これは本当にリップサービスではなく、すばらしいということで、皆、このまちづくりに携わったメンバーが言っております。

これから具体的にになっていくに当たって大変なことがいっぱいあると思うんですけど、UDCさんの役割って非常に大きくなってくると思います。

先ほどから出ていますけれども、これは民間企業の視点として見ると、持続化のまちづくり、そこがちゃんと市民の方が本当に安心して活用して暮らし続けるためには、やっぱり事業者がちゃんと経済を回していくという観点では、継続して事業をし続けなきゃいけないという、絶対、使命が生まれてきます。

ということは、様々な事業者が集まっているときに、いろんな候補リストは必要だと思うんですけども、ある程度、企業がちゃんと持続的にその場所で事業ができる、商売ができる、サービスの提供ができるということも計算しながら、まちづくりって作り込んでいかないと、結構、いろんな都市で、すばらしい絵を描けたんだけど、公募の段階で誰も手を挙げないで不調に終わるといったことも色々出てきておまして、そういったことも含めて、今後、プラットフォームのメンバーと議論していくのかなと思いつながりながら聞かせいただきました。

この6回の委員会、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました

○千寺丸委員 今までいろいろお話しさせていただいてありがとうございました。

いろんな意見を聴かせていただいて、私、社協の立場から、福祉の立場から少し発言させてもらう機会が多かったんですけれども、私の立場から、やっぱり高齢者と障害を持った方々に対しても手厚い中心部になっていただきたいなというふうに思っております。

これからいろんなものがオンライン化されていって、高齢者が非常に不安を持ったまちなになっていくという可能性も出てくるんですけど、そういう中でも、これからいろんな市民の方々、学生団体、ボランティア団体、そういう方々を活用しながら、困った人達を救っていければなというふうに思っています。

そういうときに活躍できる、活用できるボランティアさんはかなり苫小牧市民にも多くいますので、これから多文化共生になっていくということもありますし、例えば外国語をしゃべれるボランティアさんをこれからどんどん育成していこうとか、そういう方々をまちのどこかに配置していこうとか、そういうことで、社協としても、ボランティアセンターとしても、使える部分は非常に多いかなと思いますので、ぜひとも何かありましたら声かけをしていただければなと思います。

誰も取り残されないようなまちに苫小牧市がなっていければ、そういうふうに思っていますので、これからもまたよろしくお願ひしたいと思います。今まで、どうもありがとうございました。

○山口委員 苫小牧オープンプロジェクトのメンバーとして参加させていただきました。ありがとうございます。

個人的には、6年間ですか、まちなかで歩行者天国のほうを開催させていただいて、あるとき、若者から、まちなかというのは何をやるどころなんですかと、苫小牧のまちなかというのは何をやってきたんですかと言われてまして、そんな子たちが6年来てくれました。運営に携わってくれたんです。

そんなことが私どもの励みになっていてこういうすばらしいプランが出来上がりまして、何年後か分からないんですけど、皆さんと横のつながりを基調にしながら、実施に向けて頑張っていけたらと思います。

あとは、子供たちが携わる事業を何点か決めさせていただいて、そこもしっかり若者たちと連携しながら、しっかり引継ぎをしていくということを心に思いながら、そういう事業に取り組んでいけたらと思っています。

非常に貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

○森座長 それでは、皆様、円滑な委員会の進行、ご協力ありがとうございました。

私も、この場であったり、事務局との打合せの中で様々な議論をすることで、いろいろ考えるきっかけをいただけて大変ありがたく思っています。

それで、今回、例えば今日のお話ですと、いろんなコンテンツが出てきた中で、エリアプラットフォームの話が出てきました。

T. O. Pの方々を中心に入っていたかかないといけないプラットフォームになるかなとは思っているんですけども、こういう市民、住民の、ある種、意欲的な方々が集まって活動して、実証実験なんかもしながらやっていくこと、その活動自体はすごく有意義だと思うんですけども、その意味は、もう少し先のところにもっと大事な意味があるかなと思っていまして、それは、先ほど駅前のお話で、前みたいに商業施設をぼんと誘致するという考え方云々の話がありました。

これは委員会でも度々出てきた話なんですけれども、やはりどの自治体、どのまちでも、全ての市民、住民の方が同じ価値観を持っているわけではなくて、さらにやっぱり難しいところは、これは私もこれから気をつけないといけないんですけども、年代によってやっぱり持っている当たり前というのが違っていたり、経験によって、これがスタンダードと違ってくるとか、こういったエリアプラットフォームの活動というのは何が大事なかなと思うのは、将来を見たときに、苫小牧として大事なことを考える価値観をどのように盛り上げていくか、共有していくのかというところかなと思います。

ある種の啓蒙的な意味合いというのが、このエリアプラットフォームにすごくあると思います。その価値観がないままに実証実験があるとか、どうかということをやっても、あんなものを作ってという話にやっぱりなるんですね。

この間、ニュースでご覧になった方がいるかもしれないんですけども、兵庫県の神戸のほうで、車道をもものすごく狭くして、歩道をすごく広くして整備したんですけども、車道が狭過ぎるからもっと広くしろという文句が出てきたというニュース、ご存じないですかね。1週間か10日ぐらい前にあったんですね。

あれは、実は行政としては、これから歩行者優先の安全な道を造っていくので、協議しながら、車道は狭くして、意図的に対向するときに速度を落とさないといずれ違えないぐらいのところに縮めて、速度を落とさせて、歩行者空間を大きくするというで整備したんですけれども、やった結果、こんなに擦れ違うのが難しいところだったら、道路を広々してくれということでも今もめているんですね。

これはまさにそのポイントで、例えばウオーカブルといったときに、ウオーカブルが大事だと思っておられる方は、歩行者のゾーンを、例えば2メートルぐらいしかないのを5メートルぐらいに広げようとして、雪が降ってもちゃんと幅員を確保できるようにして、車道は一方通行でもいいでしょうみたいな話になるんですけれども、そこがやっぱり、整備、ハードが整ったからイコール出来上がるというものではないです。

先週まで私オランダのほうにしばらくいたんですけれども、例えばロッテルダムというまちは、今言った車道が4メートル、歩道が7メートルというのが標準なんです。

その7メートルのうちの1.5メートルぐらいは自転車専用レーンになっていて、もう日本みたいに歩道に自転車が乗り上げて走ることもなく、じゃあ、歩道は歩道で4メートルぐらいあって、車は3メートルか4メートルのところ、時々、ハンプバンプって乗り上がるのがあって速度が落ちる、それが当たり前になっているまちづくりのところは、やっぱり日本の外を見るともうたくさんあるんですね。

そこは、やはり進めていく上でも価値観的なところの調整みたいなことを何十年もかけてやってきているんです。エリアプラットフォームに関しましては、UDCもそうなんですけれども、やる活動自体だけでなく、それがどのように波及して使われていて、皆さん、庶民の皆さんの意識が変わるのかというところを、やっぱり目標として取り組んでいっていただきたいなと思っているところです。

まだまだ、今回のこの1年間のこのビジョンは、本当に事務局からの説明を聞きまして、スタートラインだと思っていますので、私も、これから先楽しみにしていますので、また、何か機会がありましたら、皆さんとご一緒できればなと思っています。

様々のご協力、どうもありがとうございました。事務局もありがとうございました。
○事務局 ありがとうございました。最後になりますけれども、事務局を代表いたしまして、ご挨拶を簡単にさせていただきます。

今日の6回目で最後ということですが、1回目のときを振り返ると、正直、どんなビジョンになるのかなというような不安が正直あって、とはいえ、6回重ねることで何とかここまで来たということに何かちょっとほっとしているところもあります。

これも、ひとえに森先生をはじめ、皆さんのおかげだというふうに思っております。

苫小牧市、今年で市政75周年ということで節目の年になっております。

そんなときに、こういう新しい将来に向けた駅前ビジョンができたということで、改めて、過去の苫小牧の発展、中心から、西が開発されて、今度は東を開発するという時代がありましたけれども、昔の中心市街地とまた違う役割は今回のビジョンで少し見つける

ことができたのかなと思っておりますので、次年度以降がしっかり計画を作成していくというフェーズに入っていきますので、先ほど解体の話もされましたけれども、できる限り頑張っって新しい中心市街地の形を作っっていくたいなと思っております。

以上をもちまして、苫小牧駅周辺ビジョン策定検討委員会第6回目を閉会させていただきます。

皆様、1年間、どうもありがとうございました。